

「令和2年度 病虫害発生予報第6号」の発表について

○向こう1か月の主要な病虫害の発生予察情報（発生予報）については次のとおりです。

・水稲では、トビイロウンカが近畿、中国、四国及び九州の一部の地域で多くなると予想されており、一部の県では警報が発表されています。

・野菜類では、ハスモンヨトウの発生が関東、近畿、中国及び四国の一部の地域で多くなると予想されています。

・果樹では、果樹カメムシ類の発生が、本州以南の一部の地域で多くなると予想されています。

このほか、水稲のいもち病等、地域によっては多くなると予想されている病虫害があるので注意してください。

国の発生予察情報について

国は都道府県の協力の下、植物防疫法（昭和25年法律第151号）に基づき、有害動植物の防除を適時で経済的なものにするため、気象、農作物の生育状況、有害動植物の発生調査結果等を分析し、有害動植物の発生予察及び防除対策に係る情報（発生予察情報）を提供しています。

本予報は、都道府県が提供する発生予察情報を取りまとめた情報になりますので、地域における情報の詳細は、都道府県病虫害防除所のホームページ等を参照してください。

発生予察について

参照URL:<https://www.maff.go.jp/j/syouan/syokubo/gaicyu/index.html>

都道府県病虫害防除所

参照URL:https://www.maff.go.jp/j/syouan/syokubo/boujyo/120105_boujoshou.html

気象

気象庁の向こう1か月の予報（7月30日付け）では、平均気温は全国的に平年より高く、平均降水量は北日本日本海側で平年並みまたは平年より多く、西日本太平洋側で平年並みまたは平年より少ないと予想されています。

気象庁ホームページ

参照URL:https://www.jma.go.jp/jp/longfcst/001_00.html（外部リンク）

水稲

水稲で各地の平年値より発生が「多い」・「やや多い」と予想される病虫害及びその地域

作物名	病虫害名	発生が「多い」と予想される地域	発生が「やや多い」と予想される地域
-----	------	-----------------	-------------------

水稻	稲こうじ病	北陸	南東北
	いもち病	関東、甲信、北陸、東海、中国、四国	東北、近畿、九州
	縞葉枯病(ヒメトビウンカ)	北海道	近畿、中国
	紋枯病	南東北、北関東、北陸、東海	北東北、近畿、中国、四国、北九州
	コブノメイガ	北東北、北陸、近畿、中国、四国、九州	東海
	セジロウンカ	北海道、北陸、中国、四国	北東北、南関東、甲信、東海、近畿
	ツマグロヨコバイ	北陸	甲信、東海
	トビイロウンカ	近畿、中国、四国、九州	東海、近畿
	斑点米カメムシ類	北東北、関東、甲信、北陸、東海、中国	北海道、南東北、北関東、北陸、近畿、四国、北九州

注) 表中の地域については、必ずしもその全域で発生が見られるものではありません。

・いもち病（穂いもち）の発生が、関東、甲信、北陸、東海、中国及び四国の一部の地域で多くなると予想されています。病害虫予報第5号の発表以降、葉いもちが広域に発生している複数の県から注意報が発表され、一部の地域では上位葉に葉いもち病斑が見られたことから、早期の薬剤散布が指導されています。当該地域では、断続的な降雨により水稻の葉面が湿潤となり、本病に感染しやすい好適な条件となると、急激に穂いもちに進展するおそれがあります。

今後の本田散布に際しては、本田での発生状況を把握するとともに、都道府県から発表される発生予察情報等を参考に検討してください。

なお、一部の薬剤に対して耐性菌が発生しているため、薬剤の選定に際しても発生予察情報等を参考に検討してください。

・紋枯病の発生が、南東北、北関東、北陸及び東海の一部の地域で多くなると予想されています。特に、昨年、多発したほ場では本年も多発するおそれがあるため注意が必要です。本病は高温多湿条件で発生が助長され、病勢は少しずつ進展していきます。今後の発生状況に注意し、適期に防除を実施してください。

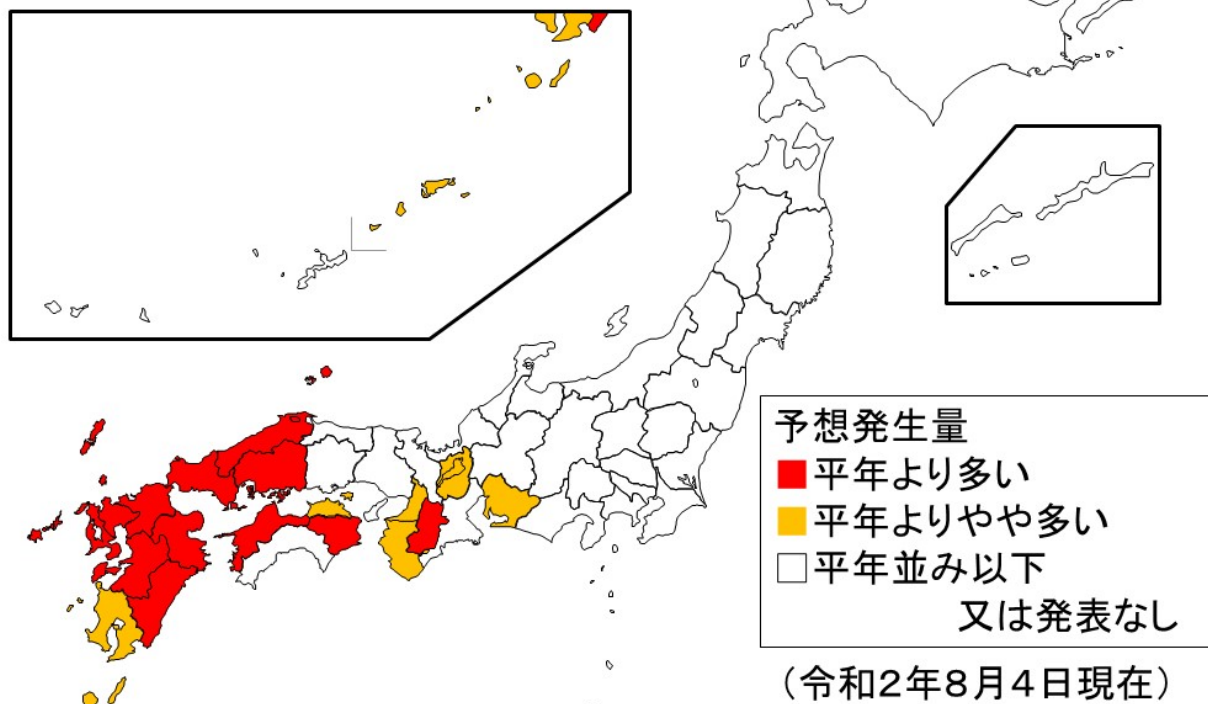
・コブノメイガの発生が、北東北、北陸、近畿、中国、四国及び九州の一部の地域で多くなると予想されています。上位葉での被害が多くなると収量に影響するので、本害虫の本田での発生状況を把握するとともに、都道府県の発表する発生予察情報等を参考に若齢幼虫の最盛期をとらえた防除を実施してください。

・セジロウンカの発生が、北海道、北陸、中国及び四国の一部の地域で多くなると予想されています。本虫は、梅雨時期に中国大陸から飛来し、本田で増殖して水稻を加害します。本田の見回りの際には株元を注意深く観察し、株元に褐色の点又はすじ状の傷（産卵痕）が目立ち、成虫または幼虫の発生が多く見られる場合は、都道府県の発表する発生予察情報等を参考に適期に防除を実施してください。

・トビイロウンカの発生が、近畿、中国、四国及び九州の一部の地域で多くなると予想されています。病害虫予報第5号の発表以降、平年を上回る広域かつ高密度の発生が確認された複数の県からの注意報と、山口県からの警報が発表されています。本虫は、梅雨時期に中国大陸から飛来し、夏以降に高温少雨傾向になると本田で急激に増殖し、一部に集中して稲を枯れさせ倒伏させる被害（坪枯れ）を引き起こします。また、近年では一部の薬剤に対し抵抗性を持つトビイロウンカの飛来が報告されています。

本田の見回りの際には株元を注意深く観察し、株元に成虫または幼虫を確認した場合には、都道府県の発表する発生予察情報等を参考に適期に防除を実施してください。

トビイロウンカに関する 都道府県の発生予察情報について



・斑点米カメムシ類の発生が、北東北、関東、甲信、北陸、東海及び中国の一部の地域で多くなると予想されています。病害虫予報第5号の発表以降、平年を上回る広域かつ高密度の発生が確認された複数の県から注意報が発表されています。都道府県の発表する発生予察情報等を参考に適期に防除を実施してください。本虫は、本田周辺の雑草に生息し、出穂期になると本田に侵入し穂を加害します。このため、出穂期を迎えた地域では、本田周辺雑草の除草作業は控えてください。

野菜・花き

野菜・花きで各地の平年値より発生が「多い」・「やや多い」と予想される病害虫及びその地域

作物名	病害虫名	発生が「多い」と予想される地域	発生が「やや多い」と予想される地域
いちご	炭そ病	東海、四国	南関東、北九州
きゅうり	アザミウマ類	南関東	四国
	うどんこ病	近畿	甲信
	褐斑病	北東北	南東北、近畿、四国
大豆	吸実性カメムシ類	北陸、中国	北東北、北関東、甲信、東海、近畿
トマト	コナジラミ類	東海	南関東、南九州
	灰色かび病	北東北、東海	南東北、南九州
	葉かび病		南東北、四国、南九州
なす	アブラムシ類		北関東、四国
	うどんこ病	近畿	南関東、四国
ねぎ	アザミウマ類		北東北、北陸
	黒斑病	南関東	北東北
	さび病	北陸	北東北

作物共通	オオタバコガ		北東北、北関東、甲信、北陸、東海
	シロイチモジヨトウ	東海	近畿、四国
	ハスモンヨトウ	関東、近畿、中国、四国	北陸、甲信、東海、南九州

注) 表中の地域については、必ずしもその全域で発生が見られるものではありません。

いちご

・炭そ病の発生が、東海及び四国の一部の地域で多くなると予想されており、愛知県から注意報が発表されています。本病は気温が高くなる時期に発生しやすいので、今後の発生状況に注意し、感染株は早期に抜き取り、ほ場外で適切に処分してください。また、菌の胞子はかん水などにより飛散し感染するため、かん水の際には水滴の小さい機材等の利用も検討してください。

大豆

・吸実性カメムシ類の発生が、北陸及び中国の一部の地域で多くなると予想されています。本虫の飛来状況は地域や園地により異なるので、都道府県の発表する発生予察情報等を参考にしつつ、園内の観察をきめ細かく行い、飛来が認められた場合は、飛来初期から防除を実施してください。

トマト

・灰色かび病の発生が、北東北及び東海の一部の地域で多くなると予想されています。伝染源となる病部は早期に除去するとともに、効果の高い薬剤を均一に散布するなど、都道府県の発表する発生予察情報等を参考に適切に防除を実施してください。本病は気温20度前後で発生が拡大しやすく、多湿条件で発病が助長されることから、ほ場内の通気に努めてください。

作物共通

・ハスモンヨトウの発生が、関東、近畿、中国及び四国の一部の地域で多くなると予想されており、複数の県から注意報が発表されています。ほ場内の発生状況に注意しつつ、都道府県から発表される発生予察情報等を参考に、適期に防除を実施してください。

果樹・茶

果樹・茶で各地の平年値より発生が「多い」・「やや多い」と予想される病虫害及びその地域

作物名	病虫害名	発生が「多い」と予想される地域	発生が「やや多い」と予想される地域
かんきつ	ハダニ類		近畿、四国
	かいよう病	中国	南関東、東海、近畿、四国、南九州
	黒点病	四国	東海、近畿、中国、南九州
なし	シンクイムシ類		南東北、北陸、中国
	ハダニ類		南東北、北陸、東海、近畿
	黒星病		南東北、北関東、甲信、中国
	黒斑病	近畿	甲信、中国
ぶどう	晩腐病	北関東、甲信	北東北、北陸
	灰色かび病	北東北、北関東	
	べと病	北東北、北関東、北陸	甲信、近畿、北九州

もも	シンクイムシ類		南東北、北陸、東海
	せん孔細菌病	南東北、甲信	北東北、北陸、近畿
りんご	シンクイムシ類	北東北	北海道、南東北、甲信
	ハダニ類	北東北	南東北
	黒星病	北東北	北海道、南東北
果樹共通	カメムシ類	東北、北関東、甲信、北陸、東海、近畿、中国、四国、九州	
茶	チャノホソガ	東海	南関東、近畿、南九州
	ハマキムシ類	東海、近畿、北九州	南関東
	炭そ病	東海、近畿、北九州	南関東、南九州

注) 表中の地域については、必ずしもその全域で発生が見られるものではありません。

ぶどう

・**晩腐病**の発生が、北関東及び甲信の一部の地域で多くなると予想されています。り病部は伝染源となるので収穫後も園地に残さず、適切に処分してください。また、本病は降雨により発生が助長されるので、天候の推移に注意し、適期に薬剤防除を実施してください。

・**灰色かび病**の発生が、北東北及び北関東の一部の地域で多くなると予想されています。伝染源となるり病部は早期に除去するとともに、効果の高い薬剤を均一に散布するなど、都道府県の発表する発生予察情報等を参考に適切に防除を実施してください。本病は気温20度前後で発生が拡大しやすく、多湿条件で発病が助長されることから、園内の通気に努めてください。

もも

・**せん孔細菌病**の発生が、南東北及び甲信の一部の地域で平年より多く発生しています。本病は、収穫後の防除対策を適切に行うことにより、翌年の春型枝病斑の発生の抑制に繋がります。本年多発生となった園地にあっては、来年の発生を抑えるため、収穫後に、り病枝の切除と薬剤散布による防除を的確に実施してください。

果樹共通

・**果樹カメムシ類**の発生が、本州以南の一部の地域で多くなると予想されており、複数の県から注意報が発表されています。

今後、当年世代（越冬世代以降の世代）を中心に、夏期の薄暮時に餌を求めて園地に移動するようになります。本年の越冬世代の発生が多かった地域では次世代の発生量に注意が必要です。本虫の飛来状況は地域や園地により異なるので、都道府県の発表する発生予察情報等を参考にしつつ、園内の観察をきめ細かく行い、飛来が認められた場合は、飛来初期から防除を実施してください。

茶

・**ハマキムシ類**の発生が、東海、近畿及び北九州の一部の地域で多くなると予想されています。ハマキムシ類の防除は、幼虫が葉をつづり合わせる前（ふ化期～若齢幼虫期）までに薬剤散布を行うことが効果的ですが、地域や発生する種類の違いにより薬剤の効果が異なることが知られています。都道府県から発表される発生予察情報等を参考に、適切な薬剤を選定し、地域の予察灯やフェロモントラップによる前世代成虫の誘殺最盛日の7日後程度を目安に防除を実施してください。

・**炭そ病**の発生が、東海、近畿及び北九州の一部の地域で多くなると予想されています。本病は

前茶期に発生したり病部が感染源となり、降雨により発生が助長されます。都道府県の発表する発生予察情報等を参考にしつつ、園内の観察をきめ細かく行い、新芽生育初期から防除を実施してください。

都道府県が発表した警報、注意報、特殊報等

令和2年7月15日以降、都道府県が発表している警報、注意報及び特殊報は以下のとおりです。

警報

発表月日	都道府県	対象作物	対象病害虫
8月3日	山口県	水稲	トビイロウンカ

注)重要な病害虫が大発生することが予測され、かつ、早急に防除措置を講ずる必要がある場合に発表します。

注意報

発表月日	都道府県	対象作物	対象病害虫
7月15日	神奈川県	作物共通	ハスモンヨトウ
7月15日	長崎県	早期水稲	トビイロウンカ
7月15日	長崎県	普通期水稲	トビイロウンカ
7月15日	長崎県	水稲	コブノメイガ
7月16日	福島県	水稲	斑点米カメムシ類
7月16日	愛知県	水稲	イネいもち病
7月16日	愛知県	水稲	斑点米カメムシ類
7月16日	山口県	水稲	トビイロウンカ
7月17日	岩手県	水稲	イネいもち病
7月17日	島根県	水稲	トビイロウンカ
7月17日	徳島県	作物共通	ハスモンヨトウ
7月17日	宮崎県	早期水稲	トビイロウンカ
7月17日	宮崎県	普通期水稲	トビイロウンカ
7月21日	山口県	水稲	コブノメイガ
7月21日	大分県	水稲	トビイロウンカ
7月22日	岩手県	きゅうり	褐斑病、炭そ病
7月22日	山形県	水稲	イネいもち病
7月22日	長野県	水稲	イネいもち病
7月22日	岐阜県	水稲	斑点米カメムシ類
7月22日	岐阜県	水稲	イネいもち病
7月22日	福岡県	果樹全般	果樹カメムシ類
7月22日	佐賀県	水稲	トビイロウンカ
7月22日	佐賀県	水稲	コブノメイガ
7月27日	福井県	水稲	イネいもち病
7月28日	岩手県	水稲	斑点米カメムシ類
7月28日	岩手県	りんご	りんご斑点落葉病
7月28日	茨城県	水稲	斑点米カメムシ類
7月28日	埼玉県	水稲	イネいもち病
7月29日	岡山県	水稲	イネいもち病
7月30日	福島県	水稲	イネいもち病

7月30日	広島県	水稲	トビイロウンカ
7月30日	鹿児島県	水稲	コブノメイガ
7月31日	茨城県	水稲	イネいもち病
7月31日	岐阜県	トマト	トマト灰色かび病
7月31日	愛知県	いちご	イチゴ炭そ病
7月31日	奈良県	水稲	トビイロウンカ
7月31日	愛媛県	水稲	斑点米カメムシ類
7月31日	沖縄県	さつまいも	チョウ目害虫（イモキバガ、ナカジロシタバ、エビガラスズメ）
7月31日	沖縄県	おくら	フタテンミドリヒメヨコバイ
8月3日	熊本県	果樹全般	果樹カメムシ類
8月4日	鳥取県	水稲	斑点米カメムシ類

注) 警報を発表するほどではありませんが、重要な病害虫が多発することが予測され、かつ、早めに防除措置を講じる必要がある場合に発表します。

特殊報

発表月日	都道府県	対象作物	対象病害虫
7月15日	秋田県	スイートコーン	ツマジロクサヨトウ
7月15日	山形県	フェロモントラップ誘殺、 飼料用トウモロコシ	ツマジロクサヨトウ
7月17日	和歌山県	なす	タバコノミハムシ
7月22日	静岡県	フェロモントラップ誘殺	ツマジロクサヨトウ
7月27日	埼玉県	作物共通、果樹全般	ミナミアオカメムシ
7月28日	長野県	フェロモントラップ誘殺	ツマジロクサヨトウ
7月30日	神奈川県	にんにく	ネギオオアラメハムシ
7月31日	岐阜県	飼料用トウモロコシ	ツマジロクサヨトウ
8月3日	長野県	ほうずき	タバコノミハムシ

注) 各都道府県において、新たな病害虫を発見した場合及び重要な病害虫の発消長に特異な現象が認められた場合に発表します。
病害虫の生態等の生物学的情報や防除に関する情報の詳細については、各都道府県の病害虫防除所のホームページ等を参照してください。

ツマジロクサヨトウの発生状況について

本年は、8月4日現在、28県においてツマジロクサヨトウの発生が確認されております。
本虫の防除には、早期発見が重要であることから、都道府県が発表する発生情報等を参考にしながら、ほ場観察を行ってください。疑わしい虫を見つけた場合には、都道府県病害虫防除所又は最寄りの植物防疫所まで御連絡をお願いします。
農林水産省では、令和2年の本虫の発生状況や防除対策等について、ホームページに掲載しています。詳しくは以下のURLをご覧ください。

ツマジロクサヨトウに関する情報

参照URL:https://www.maff.go.jp/j/syouan/syokubo/keneki/k_kokunai/tumajiro.html

病虫害防除に関する留意事項

一般

- ・病虫害の防除を効果的に実施するためには、注意深くほ場観察を行うことにより、病虫害の発生状況を的確に把握することが必要となります。病虫害の発生は天候の影響を大きく受けるので、天気推移に注意しつつ、各都道府県の防除指針に従い、適期に適切な防除を実施してください。
- ・薬剤防除を実施する場合は、病虫害が薬剤抵抗性を獲得しないように、同じ作用機作の薬剤の連続使用を避けてください。また、農薬の使用基準を遵守して適切な薬剤を選択するとともに、散布対象外の農作物等に農薬が飛散しないよう対策を講じてください。

露地栽培

- ・引き続きほ場観察を行い、病虫害の早期発見に努め、発生を認めた場合は適期に適切な防除を実施してください。

施設栽培

- ・ウイルス病を媒介するアザミウマ類、アブラムシ類、コナジラミ類等の侵入や野外への飛び出しを防止するため、施設の開口部に防虫ネットを設置する等の対策を実施してください。また、雑草はこれら害虫の発生源となるので、施設内及び周辺の除草を定期的に行うよう努めてください。引き続きほ場観察を行い、病虫害の早期発見に努め、発生を認めた場合は適期に適切な防除を実施してください。
- ・作物残さは、害虫の発生源となり、り病葉及びり病果は、病害の伝染源となります。栽培終了後は、作物を枯死させ餌をなくすことで生存虫を死滅させてから搬出し、土中に埋める等、確実に処分をしてください。
- ・施設内が過湿になると、病害の発生が助長されるため、雨水が施設内に入らないように留意するとともに、過度なかん水を回避する、循環扇を設置する、換気を行う、作物の株間の通風を図る等により、施設内が過湿にならないように管理してください。また、病害の早期発見に努め、伝染源となるり病葉及びり病果は除去し、適期に薬剤防除を実施してください。

用語解説

(地域)

北海道：北海道

東北：青森県、岩手県、宮城県、秋田県、山形県、福島県

北東北：青森県、岩手県、秋田県

南東北：宮城県、山形県、福島県

関東：茨城県、栃木県、群馬県、埼玉県、千葉県、東京都、神奈川県

北関東：茨城県、栃木県、群馬県

南関東：埼玉県、千葉県、東京都、神奈川県

甲信：山梨県、長野県

北陸：新潟県、富山県、石川県、福井県

東海：岐阜県、静岡県、愛知県、三重県

近畿：滋賀県、京都府、大阪府、兵庫県、奈良県、和歌山県

中国：鳥取県、島根県、岡山県、広島県、山口県

四国：徳島県、香川県、愛媛県、高知県

九州：福岡県、佐賀県、長崎県、熊本県、大分県、宮崎県、鹿児島県

北九州：福岡県、佐賀県、長崎県、大分県

南九州：熊本県、宮崎県、鹿児島県

沖縄：沖縄県

(発生量(程度))

多い(高い)：やや多いの外側10%の度数の入る幅

やや多い（やや高い）：平年並の外側20%の度数の入る幅
平年並：平年値を中心として40%の度数の入る幅
やや少ない（やや低い）：平年並の外側20%の度数の入る幅
少ない（低い）：やや少ないの外側10%の度数の入る幅
（平年値は過去10年間の平均）

（参考）今後の発表予定日

第7号:9月9日(水曜日)

第8号:10月7日(水曜日)

第9号:11月11日(水曜日)

第10号:令和3年3月10日(水曜日)

（参考）これまでの発表

第1号:4月22日(水曜日)

第2号:5月13日(水曜日)

第3号:6月10日(水曜日)

第4号:7月1日(水曜日)

第5号:7月15日(水曜日)

第6号:8月5日(水曜日)

【お問合せ先】

消費・安全局植物防疫課

担当者：白石、麻野、宮木

代表：03-3502-8111（内線4562）

ダイヤルイン：03-3502-3382

FAX：03-3502-3386